

エコアクション21

環境経営レポート



令和2年度 《令和2年4月1日～令和3年3月31日》



発行年月日 令和3年6月28日



宮田建設株式会社

目 次



0. 環境方針	
1. 事業の概要	1
2. 環境経営システム組織図	2
3. 基準年度の環境負荷と環境目標	3
4. 環境活動計画の主要内容	4
5. 環境活動取組結果の評価	5～8
(1) 目標達成状況 評価	5-1 5-2
(2) 年度別推移	6-1 6-2
(3) 売上げとの比較推移	7-1 7-2
(4) 削減による経済効果	8
6. 次年度の活動計画の内容	9
(1) 二酸化炭素の排出量の削減	
(2) 廃棄物排出量の削減	
(3) 総排水量・資源投入の削減	
7. 環境関連法規等の遵守状況	10
8. トピックス	10
9. 代表者によるコメント	11

環 境 方 針

◎基本理念

「建物を建てる」ということの意味を私たちは日々考え続けなければなりません。
建物を建てる時、私たちはたくさんの資源を使います。
それと同様に、たくさんの人が関わります。

私たちは「建設」という業務を通じて自然との共生を目指す事を使命とし、建設材料や副資材等のグリーン購入に取り組みます。

ロゴマークの由来

宮田建設では、会社のスローガンをロゴマークとして現しています。

それぞれの色・形には意味があり、それぞれが組み合わさることで会社のスローガンである「人と自然との共生」を表現しました。



（環境保全への行動指針）

私たちは、建築設計施工を通じ、省エネ・省資源に配慮した提案や活動を致します。

1 具体的に次のことに取り組みます。

- *CO2削減効果の高い建物の推進。
(エコキュート・エネファーム・太陽光発電の提案)
- *長寿命建築の推進。
(既存建物の調査・診断・改修工事の提案)
- *産業廃棄物の削減はもとより分別を徹底してリサイクルを推進します。
- *グリーン購入の推進。
- *水や電気の使用削減・省エネ運転等の使用エネルギー削減に努めます。
- *IT活用等によるコピー・プリンター用紙の削減。

これらについて、環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2 環境関連法規を遵守し、環境保全のレベル向上に努めます。

3 環境方針は、全従業員に周知するとともに、社外に公表します。

制定日 平成22年2月8日

改訂日 平成23年5月18日

宮田建設株式会社

代表取締役 横井 成昭

1. 事業の概要

(1) 事業所及び代表者名

宮田建設株式会社
代表取締役 横井 成昭

(2) 所在地

〒807-0831
北九州市八幡西区則松四丁目3-10

大分営業所：
〒870-0854
大分市羽屋217番地5



(3) 法人設立年月日

昭和46年7月23日

(4) 環境関係の責任者及び担当者 連絡先

環境管理責任者 代表取締役副社長 横井 久美
環境事務局 総務部 課長 西村 由紀
連絡先 (TEL) (093)602-8818
(FAX) (093)603-3366
<http://www.miyata-kk.com/>
e-mail hello@miyata-kk.com

(5) 主な事業内容

***福岡県知事 (特-29)第32172号
建築工事業一式 大工工事業
土木工事業一式 建具工事業
水道施設工事業 内装工事業
とび・土工工事業 塗装工事業
防水工事業 解体工事業
***一級建築士事務所登録 第1-20409号

(6) 事業の規模

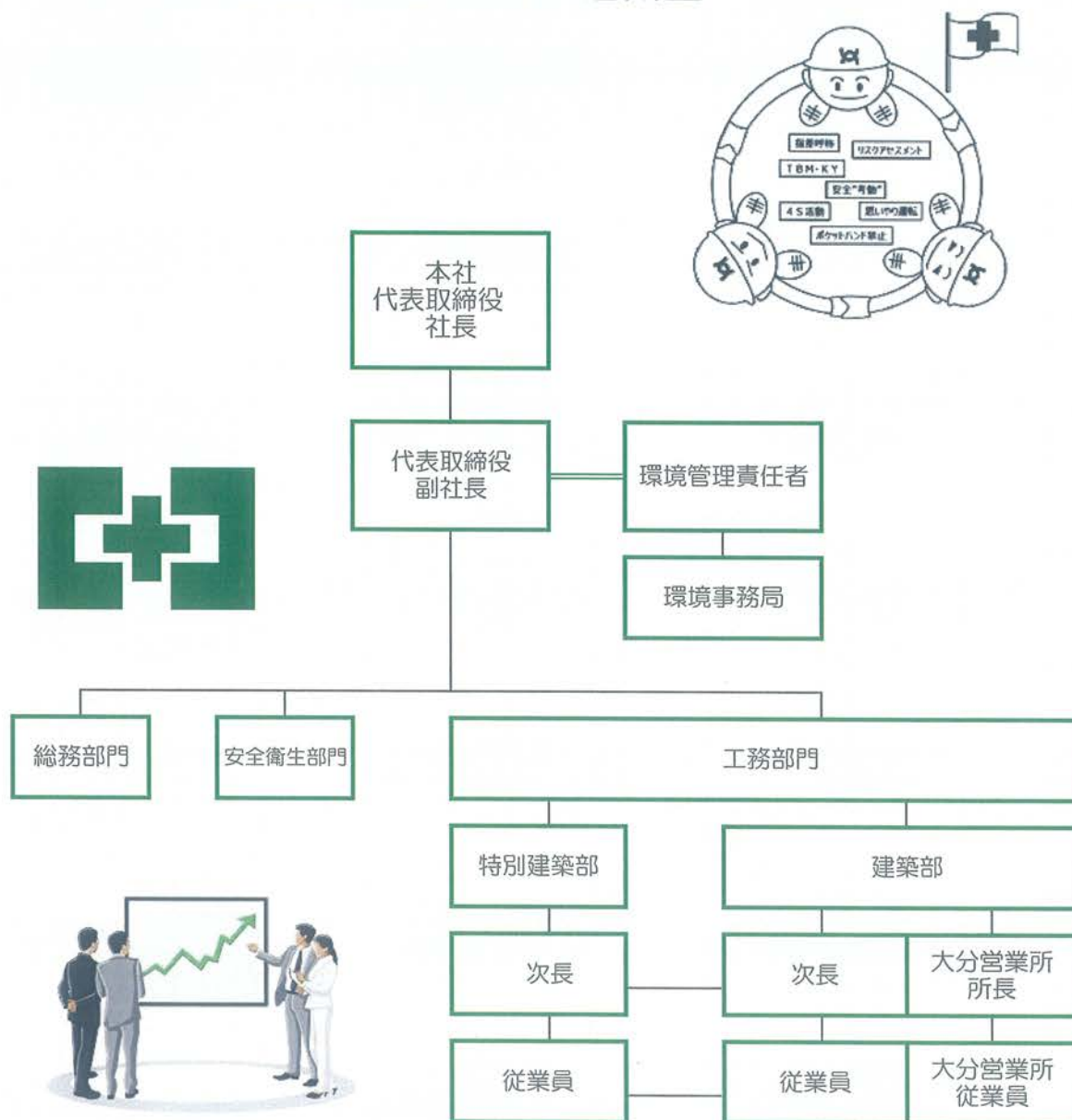
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成31年度
売上(百万円/年)	1,751	1,963	2,962	2,549	2,003	2,548	1,958	1,829	1,828	2,165
従業員(人)	18	24	23	22	22	23	24	23	25	23
床面積(m ²)	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338

当社の事業年度 4月1日～翌年3月31日

※H24年12月1日に(株)筑前工務店と合併、H24年度の数値は合併後4か月を含んだ値を示す。

力所

2. 環境経営システム組織図



* 認証登録範囲は、全社及び全活動です。

3. 基準年度の環境負荷と環境目標

《本社・営業所》

環境目標	単位	H20年度 (基準年度)	H28年度 実績	H29年度 実績	H30年度 実績	H31(R1)年度 実績	R2年度 目標	R2年度 実績	R3年度		R4年度目標 (前年比)
									前年比	目標値	
二酸化炭素排出量	ton -CO ₂	91.3	74.5	71.3	66.5	64.0	64.0	66.7	-0.1%	66.6	-0.1%
電気使用量	千kwh	46.7	23.4	25.1	23.1	21.9	21.9	26.6	-0.1%	26.5	-0.1%
灯油使用量	kℓ	1.4	1.5	1.5	1.3	1.2	1.2	1.1	-0.1%	1.1	-0.1%
ガソリン使用量(現場含む)	kℓ	15.4	17.3	15.1	13.0	12.8	12.8	12.9	-0.1%	12.9	-0.1%
軽油使用量(現場含む)	kℓ	13.2	8.2	8.7	9.3	8.7	8.7	9.0	-0.1%	9.0	-0.1%
液化石油ガス	kg	54.6	6.8	10.1	7.4	7.0	7.0	8.8	-0.1%	8.8	-0.1%
廃棄物 紙くず 排出量(一般)	ton	1.40	0.10	0.10	0.05	0.03	0.03	0.01	-0.1%	0.01	-0.1%
総排水量(給水量)	m ³	176.0	129.0	120.5	126.9	87.0	86.9	115.0	-0.1%	114.9	-0.1%
資源投入の削減 (コピー用紙)	千円	126.0	106.8	113.2	101.5	43.8	43.8	120.9	-0.1%	120.8	-0.1%

※上記の目標数値は、大分営業所も含む。

※R3年度の目標数値は、R2年度実績をベースにしています。

※電気の二酸化炭素排出係数は、2019年 九州電力0.371(kg-CO₂/kWh)を用いた。

(R1以前もこの係数で排出量の見直しを行った)

《建設現場》

令和3年度環境目標

No.	目標項目	活動計画
1	二酸化炭素排出量	電気の使用量の削減、廃プラ(使い捨て容器入弁当等)の購入抑制
2	商品の省資源化	建築物の長寿命化・省エネ商品を推進するとともに技術提案を行う。
3	大気汚染排出の削減	設計時にZEH(「ゼッチ」ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)導入の提案を行う。
4	建設騒音・振動の発生を極力防止する。	現場周辺の生活環境に影響の少ない施工方法や作業方法を検討し施工する。
5	地域との協調ならびに景観保存。	地域の景観を出来る限り保存するとともに、車両出入口において排ガス・道路清掃・渋滞防止の環境対策により、苦情の発生を「ゼロ」に維持する。
6	水使用量の削減	バルブの調整により水量及び水圧の調整を図る。又、節水が出来るように車輛タイヤの泥落としは現場内でこまめに行う。
7	産業廃棄物排出量の削減	再生可能品目、石膏ボードの分別を徹底する。

* 建設現場については、年度によって受注量が変わるので、数値目標でなく、環境活動为目标とします。

4. 環境活動計画の主要内容

● 二酸化炭素排出量の削減

- (1) 電気使用量の削減
 - ① エアコンの設定温度を決め実行する
 - ② 昼休み・残業時の不要な照明の消灯
 - ③ エアコン不要季節の時の動力停止
- (2) 灯油の使用量の削減
 - ① ストープの効率使用（重ね着等の励行）
- (3) ガソリン・軽油の使用量の削減
 - ① アイドリングストップの励行
 - ② 不要な荷物は積まない
 - ③ 加速度の少ない運転
- (4) 液化石油ガスの削減
 - ① 給湯器等の効率使用
- (5) 廃プラ焼却「ゼロ」の維持
 - ① 使い捨て容器入りの弁当等の購入禁止



● 廃棄物排出量の削減

- (1) 裏紙使用・ペーパーレス化の推進により、紙使用量の削減
- (2) 再生可能品目、石膏ボードの分別を徹底する。



● 総排水量の削減

- (1) 水使用量の削減
 - ① 小便使用時は小で流す
 - ② 手洗い、洗い物においての節水
 - ③ バルブの調整により水量及び水圧の調整を図る。車両タイヤの泥落としを現場内で行う。

● 商品の省資源化

- (1) 建築物の長寿命化・省エネ商品の推進と提案を行う

● 大気汚染排出の削減

- (1) 設計時にZEH（「ゼッチ」：ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の導入提案を行う

● 建設騒音・振動の発生防止

- (1) 騒音、振動による苦情の発生をゼロに維持する
 - ① 低騒音型建設機材の検討採用
 - ② 作業工程の工夫など影響の最小限化



● 建設現場地域との協調

- (1) 建設現場の整理整頓
- (2) 地域住民との環境コミュニケーション



5. 環境活動取組結果の評価

(1) 目標達成状況

《本社・営業所》

環境目標	単位	H31(R1)年度実績	R2年度目標		R2年度実績	目標達成の判定
			R2年比	目標値	実績値	
二酸化炭素排出量	ton-CO ₂	64.0	-0.1%	64.0	66.6	×
電気使用量	千kwh	21.9	-0.1%	21.9	26.5	×
灯油使用量(現場含む)	kℓ	1.2	-0.1%	1.2	1.1	○
ガソリン使用量(現場含む)	kℓ	12.8	-0.1%	12.8	12.9	×
軽油使用量	kℓ	8.7	-0.1%	8.7	9.0	×
液化石油ガス	kg	7.0	-0.1%	7.0	8.8	×
廃棄物排出量 紙くず(一般)	ton	0.03	-0.1%	0.03	0.01	○
総排水量(給水量)	m ³	87.0	-0.1%	86.9	115.0	×
資源投入の削減(コピー用紙)	千円	43.8	-0.1%	43.8	120.9	×

*電気の二酸化炭素排出係数は、2019年度 九州電力0.371(kg-CO₂/kWh)を用いた。

《建設現場》

No.	目標項目	取組結果の評価	目標達成の判定
1	二酸化炭素排出量	電気の使用量の削減、廃プラ(使い捨て容器入弁当等)の購入抑制。	○
		*『マイボトル』『マイ箸』運動を行った。	
		R2年度 二酸化炭素排出量 10.485ton-CO ₂ (仮設電気使用量28263kwh)	
2	商品の省資源化	建築物の長寿命化・省エネ商品を推進するとともに技術提案を行った。	○
		*長期優良・地域ブランド住宅事業の補助金により、受注につながっている。	
3	大気汚染排出の削減	設計時にZEH(「ゼッチ」ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)導入の提案を行っている。	○
		*オリジナルZEH企画マンションを行っている。	
4	建設騒音・振動の発生を極力防止する	現場周辺の生活環境に影響の少ない施工方法や作業方法を検討し施工した。	○
		*25tラフタークレーン等、低騒音・低振動を採用した。	
5	地域との協調ならびに景観保存	地域の景観を出来る限り保存するとともに、車両出入口において排ガス・道路清掃・渋滞防止の環境対策により、苦情の発生を「ゼロ」に維持した。	○
		*月一回のパトロールにより、整理整頓の強化がよくなっている。	
6	水使用量の削減	パルプの調整により水量及び水圧の調整を図る。又、節水が出来るように車輛タイヤの泥落としを現場内で、こまめに行った。	○
		*「パルプ取付」と表示することにより、より一層水の使用を気を付けるようになった。R2年度 水使用量378m ³	
7	産業廃棄物排出量の削減	再生可能品目、石膏ボードの分別を徹底した。	○
		*石膏ボード専用の分別のためのコンテナを設置した。R2年度 排出量3.6t	

(1) 目標達成評価

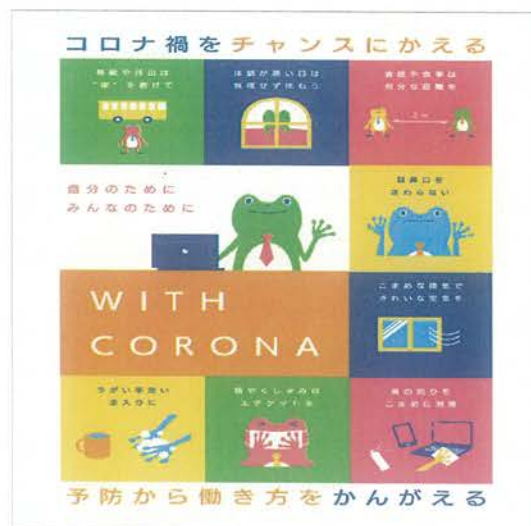
《本社・営業所》

*前頁より（目標達成項目）



EA21環境活動を取組んで11年、コロナ禍の影響、また緊急事態宣言も発令され、リモート会議等により、社員の事務所滞在時間が増えた中での、手洗いの徹底・換気や時間差出勤にて電気使用時間が増えた事や車両の乗り合い禁止等によりガソリン・軽油の使用量が通常の使用量より多くなった事で、2項目以外、目標の達成が出来ませんでした。

しかしながら、そのような環境の中でも各自が出来る限り、取り組みの意欲を継続した事で、数値は抑えられています。



《建設現場》



ZEH住宅については、SDGsの普及が加速していることから理解を得易くなりました。

今後はZEH(住宅)に次ぐ、ZEB(ビル)の推奨を計画しております。

初期投資の問題も課題としてありますが、資産価値への提案と同時に継続していきます。



(2) 年度別推移

1) 電力及び化石燃料

① 使用量

項目	単位	使用量				
		H28年度	H29年度	H30年度	H31(R1)年度	R2年度
購入電力	千kwh	23.4	25.1	23.1	21.9	26.5
灯油	kℓ	1.5	1.5	1.3	1.2	1.1
ガソリン	kℓ	17.3	17.3	13.1	12.8	12.9
軽油	kℓ	8.2	8.7	9.3	8.7	9.0
液化石油ガス	kg	6.8	10.1	7.5	7.0	8.8

CO2排出係数	
係数	単位
0.371	(kg-CO2/kWh)
2.49	(kg-CO2/ℓ)
2.32	(kg-CO2/ℓ)
2.62	(kg-CO2/ℓ)
3.00	(kg-CO2/kg)

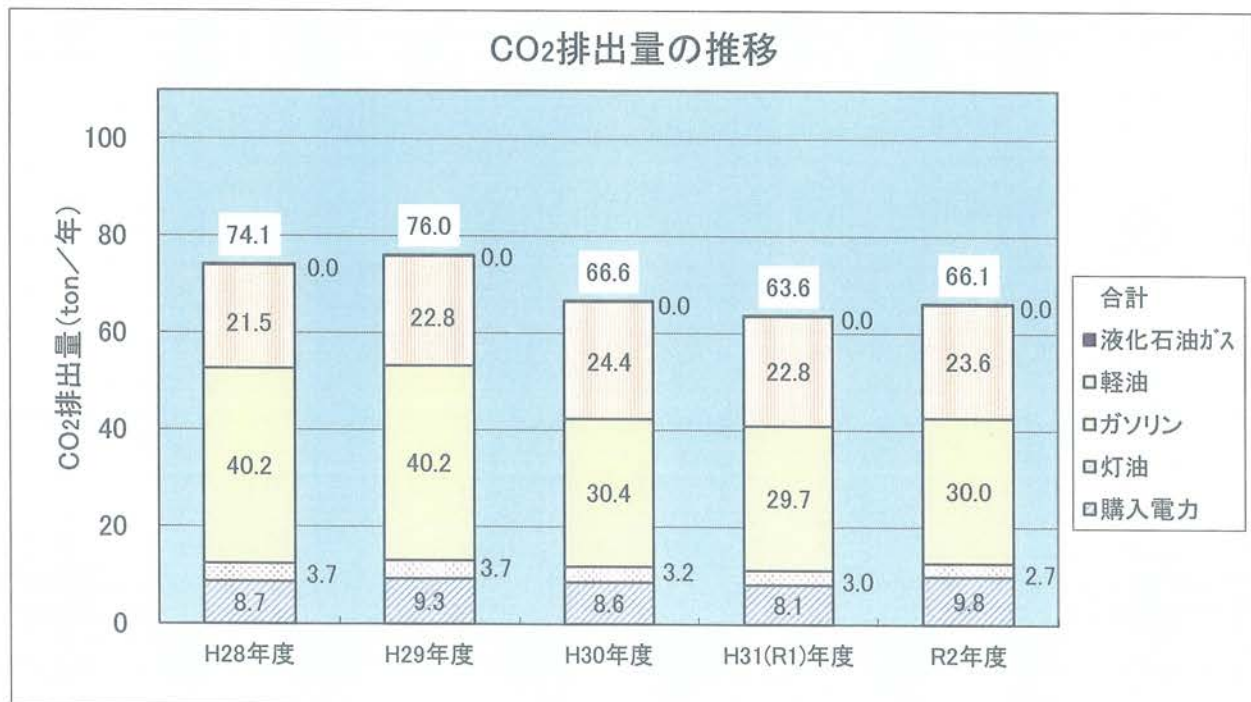
注) 電力の排出係数は

九州電力2019年度0.371(kg-kWh)

② CO2排出量

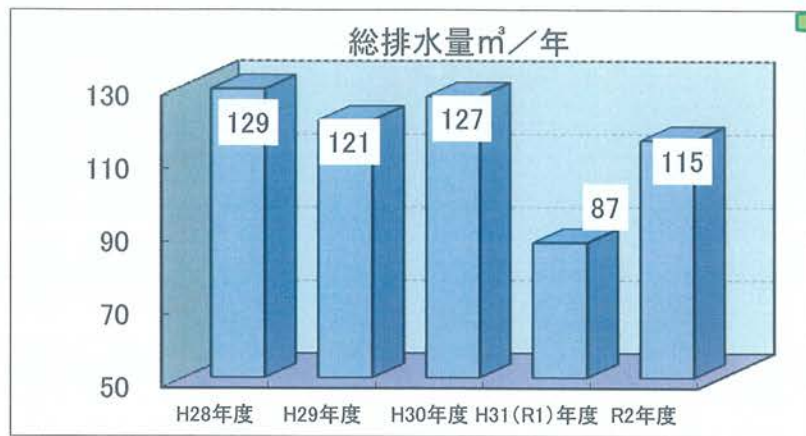
項目	単位	CO2排出量(ton/年)				
		H28年度	H29年度	H30年度	H31(R1)年度	R2年度
購入電力	ton/年	8.7	9.3	8.6	8.1	9.8
灯油	ton/年	3.7	3.7	3.2	3.0	2.7
ガソリン	ton/年	40.2	40.2	30.4	29.7	30.0
軽油	ton/年	21.5	22.8	24.4	22.8	23.6
液化石油ガス	ton/年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	ton/年	74.1	76.0	66.6	63.6	66.1

(取り組み開始比H21年度) (90.3%) (92.7%) (81.2%) (77.6%) (80.6%)

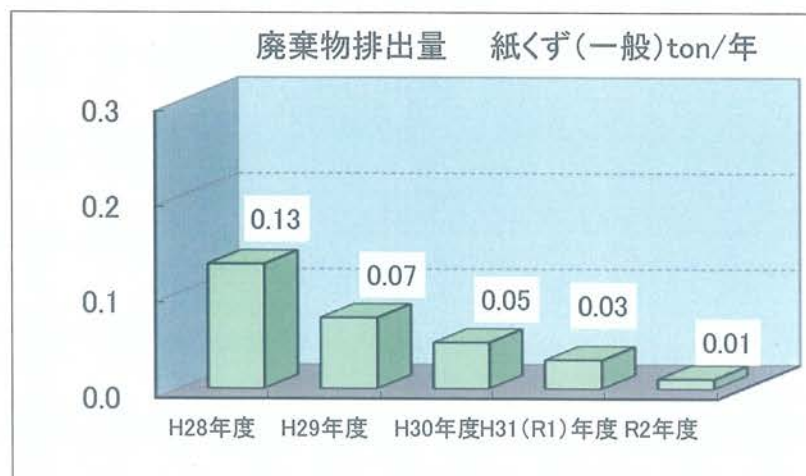


今年度はコロナ禍により、目標の達成が出来ているのは、『電力及び化石燃料』の中では、「灯油」のみとなっていますが、各自の意識向上により、CO2排出量はH22年度の取り組み開始以降、削減効果がとても良く出来ている。

(2) 年度別推移 (つづき)



節水に関しては、コロナ禍での手洗い・消毒の徹底により、目標の達成が出来ませんでしたが、その中でも雨水タンクの利用等により、最小限に抑えられている。



紙くずの排出量は、取り組み当初より裏紙使用等により、大変良く出来ています。

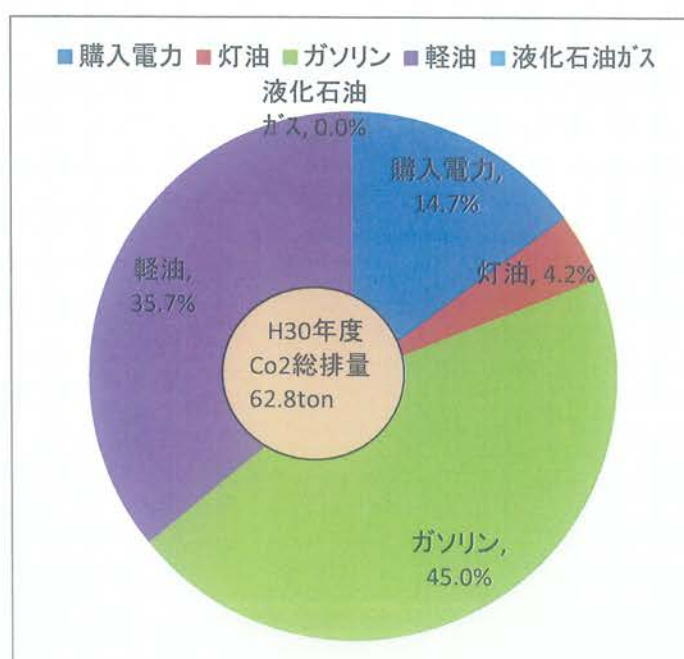
(3) 売上との比較推移

(H24.12月より合併のため社員7名増員)

二酸化炭素排出量（本社・営業所）と売上げ



取り組み当初からコロナ禍の今年度まで、受注増減の波がある中でも、各項目の数値がよく抑えられている。



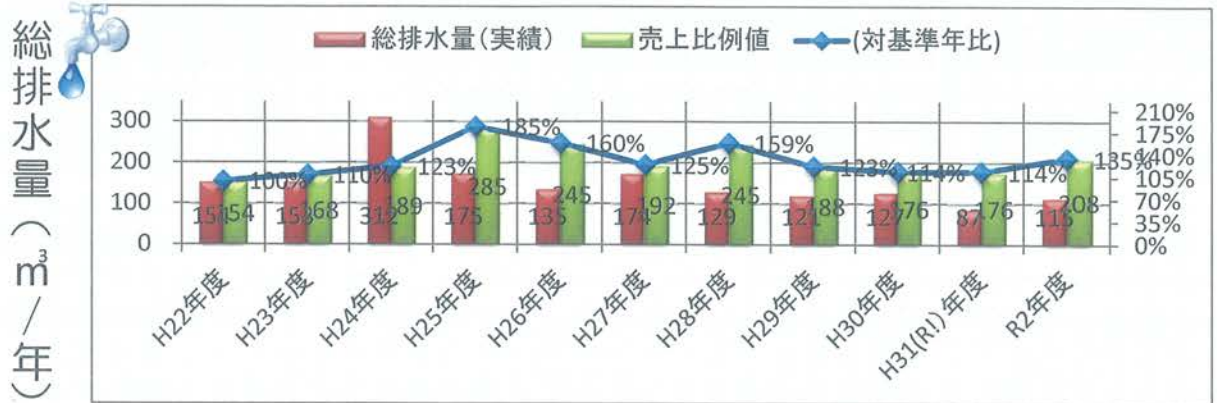
CO2排出量は、例年、ガソリン・軽油が全体の8割超占める事から、今後も車輛燃費向上等、努力が必要である。



(3)売上との比較推移(つづき)

(H24.12月より合併のため社員7名増員)

総排水量と売上げ



水は例年、使用量最小限に抑えていましたが、今年度は、コロナ禍、手洗いの徹底により使用量増となりました。

廃棄物排出量 紙くず(一般)と売上げ



EA21導入当初より、取り組みやすいこともあり、裏紙使用や紙くずの圧縮にて例年、効果を最も維持できている。

(4)削減による経済効果

【主要3品目の売上げ補正前後の比較】

環境目標	単位	H20年度 (合併後体制へ 按分)	H31(R1)年度 実績
売上げ	百万円	2,073	1,828
電気使用量	千kwh	46.8	21.9
削減量	千kwh		24.9
削減金額	千円/年		727
ガソリン使用量	kℓ	23.3	12.8
削減量	kℓ		10.5
削減金額	千円/年		1,574
軽油使用量	kℓ	15.0	8.7
削減量	kℓ		6.3
削減金額	千円/年		795

削減金額合計	千円/年	3,096
--------	------	-------

H22～H30 削減金額 累計
5,081
9,051
4,295

18,427

環境目標	単位	H20年度 (合併後体制へ 按分)	H31(R1)年度 実績
売上げ	百万円	2,073	1,828
電気使用量	千kwh	46.8	21.9
売上げ補正基準値	千kwh		41.3
削減量	千kwh		19.4
削減金額	千円/年		566
ガソリン使用量	kℓ	23.3	12.8
売上げ補正基準値	kℓ		20.5
削減量	kℓ		7.7
削減金額	千円/年		1,154
軽油使用量	kℓ	15.0	8.7
売上げ補正基準値	kℓ		13.2
削減量	kℓ		4.5
削減金額	千円/年		568

削減金額合計	千円/年	2,289
--------	------	-------

H22～H30 削減金額 累計
3,857
9,798
4,259

17,914

補正前

H31(R1)年度単価
29.2 円/kWh

149.9 円/ℓ

126.2 円/ℓ

運用開始22年度～30年度

累計
21,523 千円

補正後

H31(R1)年度単価
29.2 円/kWh

149.9 円/ℓ

126.2 円/ℓ

運用開始22年度～30年度

累計
20,203 千円

環境目標	単位	R2年度実績 補正前	環境目標	単位	R2年度実績 補正後
売上げ	百万円	2,165	売上げ	百万円	2,165
電気使用量	千kwh	21.9	電気使用量	千kwh	21.9
削減量	千kwh	24.9	売上げ補正基準値	千kwh	48.9
削減金額	千円/年	707	削減量	千kwh	27.0
ガソリン使用量	kℓ	12.8	削減金額	千円/年	766
削減量	kℓ	10.5	ガソリン使用量	kℓ	12.8
削減金額	千円/年	1,434	売上げ補正基準値	kℓ	24.3
軽油使用量	kℓ	8.7	削減量	kℓ	11.5
削減量	kℓ	6.3	削減金額	千円/年	1576
削減金額	千円/年	709	軽油使用量	kℓ	8.7
削減金額合計	千円/年	2,850	売上げ補正基準値	kℓ	15.7
			削減量	kℓ	7.0
			削減金額	千円/年	784
			削減金額合計	千円/年	3,125

*H20年度(基準年度)の数値は、
合併後体制の数値に按分して
行った。

R2年度 単価

28.4 円/kWh

136.6 円/ℓ

112.5 円/ℓ

補正前

H22年度～R2年度
累計
24,373 千円

補正後

H22年度～R2年度
累計
23,328 千円

取り組み開始(H22年度)以降の主要3品目(電力、ガソリン、軽油)について
削減の経済効果を集計した結果、売上げ補正前で毎年平均221万円、補正
後212万円、効果を上げている。

6. 次年度の活動計画の内容



(1) 二酸化炭素の排出量の削減

当社の電気、ガソリン、軽油の使用排出量は、例年 全体の95%超を占めている。令和2年度に関しましては、コロナ禍でのエアコン使用中の換気や、時間差出勤での電気使用時間が増えた事、又、車両に関しましては乗り合いの禁止等により、3項目ともに目標の達成が出来ませんでした。

次年度に関しましては、感染拡大防止のために、出来る限り、二酸化炭素排出量の削減を継続していきます。

(2) 廃棄物排出量の削減

例年、紙の排出量に関しては、裏紙使用によって大きな成果を上げている。又、ペーパーレス化により、かさばらない・なくさない・いつでも見られると、環境への配慮のほかにも効果ある事で、今後も経営課題として取り組む事とする。又、コンテナに関しては、無駄な廃棄物の排出していないかのチェックをします。



(3) 総排水量

コロナ禍により、手洗い・洗い物消毒等の徹底により、水使用量は、かなり増えています。次年度も、雨水タンクの利用等、節水・節約意識を日常化することで、最低限の節水に取り組めます。



(4) 省資源化・大気汚染排出の削減

住宅に関しましては、SDGsの普及により、長期優良住宅やZEHの提案が受入れてもらいやすくなったことで、今後は、住宅と共にオリジナルZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）マンションの企画検討を経営課題とする。

(5) 建設騒音・振動の発生防止

作業工程の工夫など設計時には、低騒音の機械導入を取り入れ、近隣の生活環境に影響の少ない時間帯に工事を行う。

(6) 建設現場地域との協調

コロナ禍、現場でも感染対策を行う事で、施主・近隣・地域の方に工事の不安を取り除くよう心掛ける。



7. 環境関連法規等の遵守状況

(1) 環境関連法規則違反、訴訟等の有無

環境関連法規則等の遵守状況の評価を行った結果、環境関連法規則等の逸脱はなく、順守している。尚、法的違反や訴訟・苦情について過去11年間ありません。

8. トピックス

TOPICS



新型コロナウイルス対策

と

新しい生活様式への対応

私たち宮田建設は、職場（作業現場）における感染防止対策の取り組みが社会全体の感染症拡大防止に繋がると考え、様々な取り組みを展開し感染症の抑制に今後とも取り組み続けます。

宮田建設では、お客様・関係者様及び従業員の安全と健康のため、以下の対策を徹底しております。

1. 基本的な感染防止対策の実施
2. 健康確保対策の実施
3. オンラインミーティングの実施

○会議室パナーション

○ハンディ換気チェッカー



○検温器と消毒器



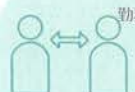
○空気清浄機



○次亜塩素酸除菌加湿器



勤務中のマスク着用



ソーシャルディスタンス



手洗い・消毒の実施

換気の実施

9. 代表者によるコメント



エコアクション21環境経営システムを運用して11年、
『未来のために今できること』

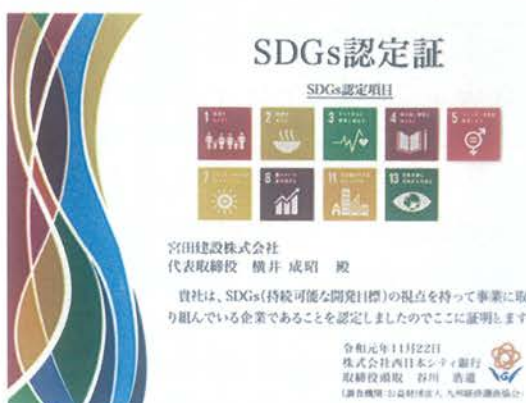
豊かな地球の恵みを次世代へ
建築と環境商品を通じ、次世代へつながるライフスタイルを提案すること
が、私たちの責務だと考えます。

令和2年度（運用11年）コロナ禍の一年、換気や手洗いの徹底、密を考慮
する事で、目標項目がほぼ達成することが出来ませんでした。取組み
（H22年度）開始より11年間で、売上げ補正前で累計2020万円程、補正
後は2330万円強の効果となっています。

この結果がモチベーションとなり、新型コロナウイルス感染症から皆の命
を守る事を優先し、『健康経営』を推進しつつ、今後も社員一丸となって
自然共生社会の実現を目指します。

コロナ禍からの「より良い復興」を目指して、宮田建設では『人と自然との共生』
をスローガンにSDGs（イ・ディー・ジーズ）持続可能な開発目標を理解し、取り組んで
おります。

「建設」という業務を通じて世界を変えるための17の目標に取り組み、2019年
11月に17項目中9つの項目で認定をいただきました。



令和3年6月28日
宮田建設株式会社

横井 成昭